

野鳥と人と環境の行方

大内正夫*

自然科学の重要な役割の一つは未来の予測にある。これは古代人の恐怖や不安の解消に神が果たした役割をある種の領域で科学が代行してきた歴史からも理解できよう。

現在、未来予測に特に関係の深い学問は、地球物理学や医学・生物などであるが、まだその機能を十分に発揮していない。それ故現代人は、地球環境の悪化の影響や天変地異に不安を抱き、より正確な予知を望んでいる。

他方、絶滅のおそれある野生生物の現況が危惧されている。特に野鳥の個体数の減少が目立った1980年代には「今日の野鳥の運命は、明日の人間の運命」という警句が当時の人々に強い感動を与えた。

地球環境の悪化の影響は野鳥と人間に共通の部分と違うものもあるので、鳥類のレッドデータブックなどを踏まえ、他方、世界の英知を結集して気候変動の過去現在から未来の予測をまとめた IPCC の報告を参照して、人間の行方に関する問題を地球環境の見地から考える。

* 京都教育大学名誉教授